

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：認知症対応型共同生活介護グループホーム ひだまり上郷

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800084		
法人名	株式会社WAKABA		
事業所名	認知症対応型共同生活介護グループホームひだまり上郷		
所在地	〒028-0771 岩手県遠野市上郷町佐比内46-23-2		
自己評価作成日	平成 年 月 日	評価結果市町村受理日	平成30年5月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani_ctrue&ji_gyosyoCd=0390800084-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30 年 2 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の人格を尊重して日常生活を過ごして頂く事が出来る様な手助けを行って行く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

製造業から福祉事業への転身で、開設から約3年経過、様々な課題に取り組みながら徐々に軌道に乗りつつある。求人難の今日、人的余裕が出てくれば、内外の十分な職員研修等で更なるスキルアップを図り、今後が楽しみなグループホームである。ホーム内では管理者の愛犬がアニマルセラピーとばかりに訪問客へ愛嬌を振り撒き、たえず利用者たちの目も微笑み穏やかな雰囲気醸し出している。ホーム周辺には、保育所、小中学校、駐在所、市社会福祉協議会、郵便局等々が点在し、協力関係を構築し易い恵まれた環境下にある。当ホームの協力医が毎月訪問診療で来訪され、職員・利用者・家族等の大きな安堵感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：認知症対応型共同生活介護グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて常にサービス向上に向けて話し合いや実践出来る様取り組みをしています。	笑顔、心、地域の三要素で構成する法人理念は、法人代表者が製造業を経営していた頃からの基本姿勢を引き継いでいる。職員は開設当初から異動はなく自分のものとして受け止めているが、誰もが何時でも振り返り初心に立ち返れるようホールに掲げている。	静かに穏やかな暮らしは重要なことであるが、活気に基づく、生き甲斐も欠かせない。開設4年の当ホームは運営基盤の確立とともに、本来のグループホームのあり方について、改めて職員会議や推進会議等で話し合われることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブ、近隣とのつながりを大事に思っております。まだまだ交流の機会を設けてゆきたいと感じています。	地区センター長の勧めもあり、代表取締役は、毎月地区センター主催で開催される地域の社会資源の代表者による「地域連絡会議」の構成員として参加し、これまで比較的疎遠だった児童関連施設等との関わりの強化に努めている。	保育所、学童クラブ、小中学校、老人クラブ等との交流も生まれ今後が楽しみであり、運営推進会議に上記の関係者の参加を促しながら、地域とともに共に歩まれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こちらに関しては中々取り組みが出来ておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では貴重な意見やアドバイスを頂き、サービス向上に役立てる努力をしています。	駐在所・老人クラブ代表・行政・区長等、多様な方々の出席を頂き、ヒヤリハットを含めた運営状況の報告等を行っている。委員は地域に初めて出来た当グループホームや認知症に対する理解を深めようと積極的に関わっている。元消防職員の委員からは、発災時の対応について提言を得ている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に応じて相談や意見を頂いたりする事が有ります。	開設5年未満の事業所ということもあり、市では法令等遵守はもとより、永続的な運営方針についても親身に相談にのってくれており、事業所の力となっている。先般の実地指導においても、丁寧な指導があったとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実地指導時に車椅子での固定が身体拘束になるとの事で指導を受けながら廃止に向けた取り組みを行う。	車椅子利用の場合の身体拘束について、市の指導があり同意書も含めて改めて整備した。不適切な言葉遣いがあった場合には、管理者も含め相互に注意しあっている。センサーマットは使っていないが、見守り支援のため3人の利用者について居室トイレに感知センサーを置いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に関しては今後も再計画を進める必要があると思っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の際、研修の機会を設けている。(必要になると思われる利用者もいる)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に改定の場合は契約書に基づいて随時説明を施行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には必ず利用者家族様に参加して頂き意見・要望等を取り入れる機会としている。	以前、運営推進会議の家族代表の委員からは、玄関へのマスク常備等、様々な意見・要望がなされ、事業所運営に取り入れてきた。今は、夏祭りへの招待、スナップ写真の送付を通じ、家族の意見等を聴ききっかけにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議を通して意見提案を検討している。	朝夕の申し送りや毎月の職員会議の際に、職員から意見が出され、これまでも、屋根付き物干し場の新設、職員用仮眠ベッドの購入と、直ちに取り入れている。法人代表は毎日のように訪れ、事業所の雑務を手伝いながら職員の意見要望の把握に余念がない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職場に頻繁に顔を出し、管理者と話を重ね整備を進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修にはなるべく参加してもらっている。(必要経費は会社側が持つ事で職員の負担を掛けない様にしている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアイノベーション会議・和みカフェ等に参加し、サービスの質向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問調査を行って本人の主張を大切に考えて出来るだけ希望の持てる回答を提供出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の心配事・思いや要望を聞き込身を行い、本人様の理想に添ったケアを提供したいと考えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の大変さを熟知して第一印象を第一に、家族・本人の要望を大切に聞き入れ必要とされる支援を提供出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ本人の希望に添った持ち物等を家族に提供して頂き落ち着く環境づくりをして周囲との関係を大切に孤立しない様な支援を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を頂き相談のうえで本人様の希望される支援を共に会話の中から導く様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を出来るだけ身近な地区へのドライブ等により、友人・知人等の情報を会話の中から聞き出すような工夫を行っている。	年を重ねるにつれ外の世界への関心が希薄になり、今の馴染みは、時折訪れる家族と1月おきの訪問理容師、週に3回買い出しに出掛ける中心部のスーパー、散歩コースの「なでる牧場」の動物たちと、ホームでの生活によるものになってきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い関係が保てるように職員が介入して利用者さん同士が一日一日を過ごす事が出来る様に、又お互いを大事に思う気持ちを持てるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了と同時に本人・家族からの連絡は殆どありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分から思いや希望などを話す事はなく、家族からの情報や日々の生活の中から本人が何を望んでいるかを把握出来る様努めている。	写真集を見て昔話を語る方は1人いるが、他の方々は自ら思いを語ることは少ない。開設当初、職員が手をかけ過ぎ、利用者は自由気儘な生活に漬かってしまった傾向がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報を基にどのような生活を送って来たのか把握しながら快適な共同生活を送れる様支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	趣味活動等への参加の声掛け、常に状態観察を行い、体調の変化等、早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見交換を実施しながら見直しを行っている。	見直しの頻度は、入居時の2か月を除き基本は3か月としている。日々の記録や居室担当職員の意見、協力医のアドバイスなどを加味し、職員会議で議論したうえで、ケアマネジャーが中心になって作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事等、個別記録に記入、職員間での情報・意見交換を行いながらケアの見直しを行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに合った対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や、老人クラブの方々に訪問して頂いたり、町内の文化展に作品を出展したりと交流の機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所のかかりつけ医による訪問診療を行っているが、本人・家族が希望される病院があれば、家族対応にて受診して頂いている。	特定の診療科を除き、かかりつけ医を協力医に変更し、通院には家族がバイタルチェック表等を持参して付き添っている。ほとんどの利用者は、協力医の訪問診療を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の常勤は無いが、利用者さんの状態に応じ、かかりつけ医に連絡し指示を仰いだり診療が受けられる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者さんが入院した際は情報を提供し、介護支援専門員が入院先に訪問して状態を把握・家族とも連携し早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所は終末期ケアは対応して居ない為、重度化した際にはご家族様と話し合い、他の施設を勧めている。	看取りは職員体制等の理由から行っておらず、今後もその方針に変更はないとしている。そのため、家族には入居時にその旨を説明し、併せて介護度が3以上になった場合には、特養への入所申請を行うことで了解を得ている。ちなみに、これまでホームから特養に5名が入所している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にマニュアルを提示し、職員がいつでも目を通せるようにしている、又施設内外の救急救命の研修に参加できる機会を設けて行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	当事業所、及び近隣施設との合同避難訓練を実施、又運営推進会議を通して地域の方々へ協力を呼び掛けている。	事業所のすぐ後ろを猫川が流れ、一昨年の台風の際には、避難の一手手前の緊迫した状況を経験し、災害に対する職員の意識は高い。水害対応のマニュアルは未作成だが、昨年秋に緊急通報装置を設置し法人代表を含めた全職員が直ちに参集出来る体制を整えている。	発災時に対応するためには、マニュアルに加え地域の協力による利用者の見守り・誘導の応援が大切であり、運営推進会議や地区センター会議等で課題として取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様への言葉使いや態度に留意しながら対応する様に心がけている。声掛けやプライバシーに配慮した対応にも注意している。	職員は1日1時間、寄り添って話し相手になる時間を作り、利用者自ら尊厳をもって生活する心の支えとなる得意な事を見出そうとしている。開設時のメンバー全員が残っており、当時行った接遇研修は今も役立っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に聞いたり選んだり出来る様、時には提案したり、決められそうにない時にも常に話しかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを大切にしている、意欲低下が見られる方に対しては気持ちに寄り添う事が出来る様努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整容を出来る方にはご自分で出来ない方については一緒に行っている、季節に合った服装が出来る様に支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前にメニューを伝えている職員(検食)を行い、季節の食材を使い行事食も取り入れている、事前の準備・配膳等の手伝いもして頂いて居る。	夜勤、早番、遅番の職員がそれぞれ朝、昼、晩の調理を担当している。週3回利用者とともに交代で買い出しに出掛け、その際、メニューの希望を聴きながら購入している。利用者は特別に好き嫌いはなく、残食はほとんどみられない。食事の前には全員で口腔体操をし顔の筋肉を動かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度チェック・記録をして不足時には声掛けや工夫を試みている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア・義歯の洗浄を毎日支援をしている、入居者様をご自分で歯磨きや義歯の洗浄を行う場合も有ります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	皆さんに定時間に声掛け誘導を促しています、支援が必要な方に対しては出来ない部分を手伝っています。	完全自立を念頭に、全居室トイレ付である。声掛け誘導は全員に実施している。完全に自立している方は5名いるが、事後点検はしている。夜間のオムツ利用は一人で、他はトイレ利用となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動の勧めと水分摂取の声掛け、必要時には内服の指示も受けてます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は曜日が決まっていますが、出来る限り本人の意向に添って変更等も行いながら支援をしています。	入浴は週2回で午後の個浴を基本とし、拒否された際には日時をずらして柔軟に対応している。入浴時の会話が弾み、ポイントは職員全員で共有に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に従って対応を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書は常時確認できる場所に設置してません。個々の内服薬・外用薬に関しては把握しており、日常的に体調の確認は行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意思に合わせ、個々に対応し無理のない範囲で対応する様に気を付けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に積極的に参加し近隣の散歩やドライブに出かける様にしています。	気候が良くなってきたら、毎月のドライブや食材の買い出し、なでる牧場で動物と触れ合い、川原によもぎ取りに出かけることもある。玄関脇の椅子で日向ぼっこを楽しんだり、近所への散歩と、筋力低下と気分転換を考慮しながら、臨機応変に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的には金銭の出し入れは行って居ません、外出時には必要に応じた対応を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては殆どの方からの希望は無し、電話は時に家族に連絡したいと希望時に連絡を取ることも有ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の居室に居る事は少ない、皆さんと一緒にホールで過ごされることが多いです。	居間ホールの共用空間は天窓からの程良い採光があり、贅沢感を味わえる。床面は安全面を考慮し、全体的にソフトフローリング材を使用している。広いホールには、カウンター越しにキッチンから流れてくる、音と匂いが、とても心地よい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごす事は寝る時のみが多い、時には養護される方も有ります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物に制限は無いですが、簡単なケース等を持ち込んでます…本人の居心地とはちょっとかけ離れている気がします。	居室は、ベッド・トイレ・洗面台・冷暖房設備が備え付けており、家族写真やカレンダー等が壁に貼ってある。全体的に家具類の持ち込みは多くない。ソフトフローリング材の床は衛生的で優しさを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部に関しては危険性は少ない、各自で安全に過ごされています。		